

われわれの未来へ(第9回)

小野 晴巳(地球冒険学校準備会顧問)



コロナ禍の中でも昨年度は、富士森公園でのスタンプラリー、高尾山登山、ふれあいコンサートの行事が対面でできて良かったと思います。

私も30年ぶりに高尾山登山に参加し、山頂での景色を堪能しました。今年は通常通りのイベントの開催を願っています。

1月に奈良市や明日香村方面に旅をしました。「京都の庭園、奈良の大仏」と言われるように、奈良県全体に国宝・重要文化財の仏像が展示されています。それを目的に出かけたのですが、今回は思わぬ収穫がありました。

「キトラ古墳の壁画」を偶然見学できたのです。キトラ古墳は、高松塚壁画が発見されて大人気になった時、地元住民が似たような古墳が他にもあるという話から発見された古墳です。以来慎重に作業を進め、やっと公開にこぎつけました。見学者は文化庁に応募して選ばれるというものです。私がそれを知ったのは、奈良に出かける数日前で、応募期間は終了していました。飛鳥方面へ出かけた際に、ダメもとでキャンセルでもあればという淡い期待でキトラ古墳に向かったら、キャンセルがあり入場できました。厳重な身体検査と監視の中で「南壁の朱雀」の説明を含めて20分間対面しました。高松塚絵画と違い人物像はなく空想の動物が東西南北に描かれています。今回は「南の朱雀=鳳凰」だけの公開でした。貴重な体験で、何回訪ねても飽きない奈良の旅でした。

1. 過去から学ぶ難しさーアジア・太平洋戦争、インパール作戦(6)

日本遺族会東大和市の理事になり4年目になります。日本遺族会は、第二次世界大戦で戦死した遺族の会です。この会は私の信条と若干違うところもありますが、ボランティア活動として参加しています。

そんな中で知り合った86歳の女性会員(同県人で同職業人)の戦争遺児の戦後の生き方を紹介します。

「私は、山形県米沢市生まれで父は役場で軍の懲役兵係をしていました。しかし、老兵さえも戦場を送る職務の重責に耐え切れず、自ら志願して軍隊に入隊し、終戦年に出征しました。中国で戦死し、戦死通知は敗戦後まもなく届きました。(享年39歳)私はその時小学校3年生。妹5歳と母が残されました。母は生活のため、父の生まれた山形市内で父の両親、兄弟とその子供も含めての大家族と同居しましたが、生活は大変でした。その後、母に米沢市役所の雑役係のような仕事が見つかり、米沢市内で間借り生活をし、私はやっと高校に入学できました。高校でも授業料が払えなくて滞納者としていつも名前が事務室前に書かれていました。恥ずかしいですが、高校で勉強できる喜びの方が強かったです。大学も同じ状況でしたが、奨学金制度で辛うじて卒業できました。卒業後は、東京都の小学校教員に採用され、上京し退職まで勤めました。今でも

戦争が無かったら、父親が戦死なかったらと考えます。そして私の辛い体験を起こさないように、戦争を二度と起こさないように頑張ってきました。今は夫を亡くし、体調もすぐれないのでどうしようもない。年老いてしまいました。」

さて次はミャンマーについて書いてみます。ウクライナ戦争ですっかり忘れがちなミャンマー情勢ですが、戦闘状況は続いていること、難民問題、民主化運動など続行中です。

2021年2月1日、ミャンマー軍司令官ミンアウンフライン大将により突然軍クーデターが起きました。アウンサンスーチー氏を始め民主化運動員政治家が大量に拘束されました。そして、アウンサンスーチーは33年の懲役刑、民主化活動者の死刑などが報道され、また内戦状態で泥沼化の様相です。

さらに、欧米対中・ロの対立で経済制裁さえ難しく解決には程遠い。日本は欧米側と一致して非難していますが、実情はどうでしょうか？本気度を知りたい。そして、これからミャンマーはどのようなのでしょうか。これも知りたい。この疑問に答えてくれた参考本をもとに考えてみました。(中西嘉宏著『ミャンマー現代史』岩波新書 2022. 8. 19 発行)

①選挙をしないまま軍事政権が続く

②選挙を実施して親軍事よりの政権成立（親軍事よりの政党参加の選挙実施で）

③軍と反軍事勢力との間で和解が成立して新しい選挙の実施と新政権の成立

特に③が理想だが、実現が一番難しいと解説していました。このようにミャンマーは混乱が当分続きそうです。

2. 現在の息苦しさ—原発について

物価高で生活が圧迫されていますが、この原因は何でしょうか。「原油高」「円安」「アベノミクス」「気候変動（自然災害）」など言われています。正解はなく、複合的に全て関係しているでしょう。

しかし、ウクライナ戦争で原油高が一番であると主張している政治家も多いです。「原油高」が電気料金高になるとして、それを下げるには「原発」が必要と声高です。そして、あっという間に原発の再稼働と新設を決めてしまいました。新型次世代原発の研究・開発も決めています。

私の6つの心配を述べてみます。

①電気料金は安くなるのか

確かに一時的には安くなります。(原油高という条件付き)しかし、原発全体の費用は他の水力、火力、再生エネルギーと比較するとかなり高いのです。事前調査費、用地代、住民対策費、建設費、原料輸入費、運転費、廃棄物処理費等含めると原発はコストが高いということです。さらに、廃棄物は放射能を含むので百年単位の費用が必要で計算さえできないのです。

②原発は安全になったのか

60年以上再稼働できることが決定されました。車や家電などは考えられませんが、原発は安全なのでしょうか。原発の事故は車や家電とは比較にならないほど被害が大きいことは、東日本大震災で経験しています。地震、火山、洪水など「災害大国日本」では他国と比較にならないリスクを背負っていることを忘れないで欲しい。

③責任者は誰か

もし事故が起きた時、誰が責任をとるのでしょうか。福島原発事故でも、「不可抗力」「想定外」ということだれも責任をとりませんでした。

④原発の廃棄物処理をどうするか

汚染水の海洋投棄が始まろうとしています。発表されている汚染に関するデータならば被害は少ないと思います。しかし、放射能に関する風評被害の恐ろしさを知っている漁業者、地域住民は、海洋投棄に簡単に同意はしないでしょう。さらに高濃度廃棄物はどこに置くのか、何百年保管するのか未定です。原発は「トイなきでマンション」であることを忘れないでほしい。

⑤すべて次世代に押しつけている

原発に必量な金額は次世代の負担になる。これも知っておくべきことです。

⑥テロの標的になる。

原発は、テロや戦争の時は最も恐ろしい構造物です。ヒロシマ・ナガサキ・フクシマを経験している日本人は熟知しているはずです。

このように原発は弱点を多く抱えていることを知り、かつ責任をとるという覚悟で原発を考える必要があると思います。

最後に、節電、再生エネルギーの活用など政策にとり入れ、SDGs(持続可能な開発目標)を国全体で推進してほしいです。

3. 未来の希望は教育から一教員の現在地(3)

教育を考える時、基本は「米百俵の精神」ではないかと思うこの頃です。教育に対する予算は、先進国中最低のレベルにあり、このままでは日本の将来は暗いと思うからです。この言葉は長岡薄土小林虎三郎の実話を作家山本有三が戦時中に発表した戯曲「米百俵」によるものです。内容は「百俵を食べてしまえばすぐ無くなるが、これを売った金を教育に使えば良き人材を育てられ、何倍もの価値をうみ出し返ってくる」として、学校教育に当てたという物語です。

このように教育はすぐ効果がでるものではなく、将来への投資であり、安心・安全への投資でもあるのです。しかし、国の方向性は現実主義で目の前の効率、経済性を追っているようで心配です。

最近の報告で教員の状況がさらに悪化しているのではないかとショックを受けています。それは教員採用の応募者がさらに減少しているからです。例えば、東京都の小学校教員志願者は10年間で4976人から2555人(2023年度用)に半減しました。中高も減少しています。教育委員会は教員不足で学級定数を40人に戻すというような発表をしています。

外国でも特に欧米各国で教員不足が深刻化しています。スランス、イタリア、アメリカ等の国は教員不足のため授業ができない学校が多数あるとも報じられました。欧米の教員不足の原因は「低賃金」と「社会的イメージ」が低いためのようです。

日本の場合は、勤務の過酷さ、たとえば部活指導監督、事務の増大などの負担が原因と東京都教育委員会は分析しています。

現在の教育学部生の考え方についての記事では、「調査した教育学部生48人中、30人は民間

会社に、2人は地元役所にそれぞれ就職し、12人は教職大学院に、4人は未定という進路であった。教職希望者さえ、教員の働き方改革の進展や給料等の給与制度の見直しを見てから決めたいという。このような迷いの発端は、ほとんどが教育実習がきっかけである。現場の教員の働き方を見て、自分自身の教師像と教育実習で見た現場の教師の姿とのズレが大きく生じてしまい教師への志望を見直さざるを得なくなる。」とありました。社会や国全体が、効率や経済性だけでは教育はできないことを認識し、今こそ「米百俵の精神」で教育を考えてほしいと思います。

今回のしめくくりとして、「希望」の反対語は、「絶望」です。次の識者の言葉を紹介して終わります。

「希望の反対は絶望です。最も恐ろしいのは社会に対しての無関心です。」